西東京市立田無第２中学校

佐瀬一洋・順天堂大学教授が 出張授業

東京都西東京市の同市立田無第２中学校で２月６日、日本対がん協会の協力でがん教育の出張授業が行われた。講師は、循環器の専門医であり、自身も骨軟部肉腫という希少がんの経験者である佐瀬一洋・順天堂大学大学院教授。２年生の生徒約120人を対象に、がんについて約90分の授業を行った。

佐瀬教授は、９年前に悪性の骨軟部肉腫を発症し、手術の前後２年間にわたって抗がん剤による治療を受けた経験を持つ。授業で佐瀬教授は、病気がわかったときには、同じ病気を扱った映画やドラマが作られていて、いずれも主人公が亡くなる悲劇として描かれて、悲しい気持ちになったが、生存率が上がるという新しい治療法の論文に出会い、乗り切ってきたことを紹介。

その上で、文部科学省がホームページで公表している「がん教育推進のための教材」のスライド画面や対がん協会が作成したアニメ動画教材「がんって何？」も使いながら、①がんはだれでもなる可能性のある身近な病気で、もはや不治の病でない②多くのがんは予防と発見が有効③正しい情報を得ることの大切さ――の３点について、わかりやすく解説した。

授業する佐瀬教授

授業の中では、細胞を擬人化して細胞の働きが学べる人気アニメ「はたらく細胞」の内容にもふれながら、がん細胞についてもわかりやすく紹介。さらに、佐瀬教授は、「がんは身近な病気であるが、手ごわいので、正しい情報を得ることが大事」と訴え、がんを正しく理解して、普段通りに接してくれることががん患者の願いであることなども強調した。